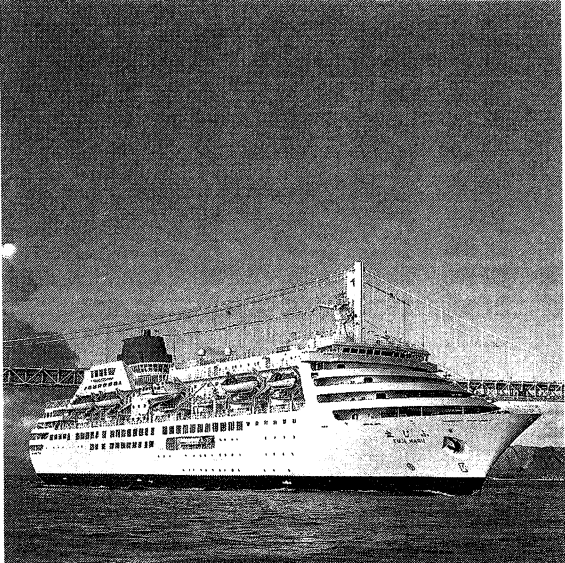




ふじ丸クルーズ再び

姫路港イメチェンに一役と

8月1日～3日



クルーズを再航する豪華客船「ふじ丸」

神姫バス(本社・姫路市西駅前町、上杉雅彦社長)は、昨年7月に姫路港開港50周年を記念して催した豪華客船「ふじ丸」に

よる姫路港発着の「屋久島クルーズ」が大好評を得たことや、継続実施の要請が多いことなどから、同港のクルーズ観光

記念に花を添えよう」と

いる。

港としての定着を図るため、今年も8月1日から3日間「銀の馬車道クルーズ」をテーマにした「屋久島チャータークルーズ」を実施する。工業港の機能、イメ

誘致を進め、実現させた経緯がある。今年、再び催すことでクルーズ文化を広め、同港をクルーズ観光港として、物流に加え、活発な人の流れを定着させたいという。ふじ丸は、全長167メートル、2万3235トン、客室163室、乗客定員600人。その優雅な船姿から「海のプリンセス」と呼ばれている。今年「銀の馬車道から海の道へ、世界文化遺産・屋久島チャータークルーズ」と銘打って、1日午前10時30分姫路港を出港、優雅な船旅のあと、

翌朝、屋久島宮之浦新港に入港、樹齢3000年といわれる紀元杉や、もののけ姫の舞台、白谷雲水峡見学などのオプショナルツアーで、夕方出港までの1日を楽しむ2泊3日。料金は客室スイートからステートルームまで1室24万8000円から6万8000円(いずれも一人当たり旅行代金)まで。また、往復のどちらかを飛行機利用する3泊4日コースもセツトされている。ポートセールズ推進協の水田裕一郎・飾磨海運社長は「昨年、姫路クルーズ元年」の言葉を生んでくれたふじ丸で船旅の醍醐味を味わってもらおうと、今後、クルーズ客船寄港などの誘致に弾みをつけば」と期待している。